

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を語りあげている</p>	<p>地域の中で普通に暮らすことを大切にしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>すべての活動が、一人ひとりの力を引き出しその人らしい暮らしとなるよう支援している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月ごとに発行する広報紙に理念を明示し、家族や地域、運営推進委員等に配布している。</p>	<p>今後も、入居者が地域の中で暮らすことの大切さを理解してもらえるよう取り組む。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>隣近所の人と挨拶したり気軽に声を掛け合うようにしている。また地域の小中学校、事業所と行事の交流や、物品の貸し借り等行っている。</p>	<p>施設の持つ専門性や実践経験を地域に広く伝え、地域に還元する。キャラバンメイトとしても活動していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>会議の中で率直な意見が出るよう、内容や進行方法を工夫する。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>事業所の運営や実情等を報告し、共に課題に取り組んでもらえるような関係作りに努める。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>現在利用者はいないが、いつでも対応できるよう今後も定期的に勉強する。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待の徹底防止のため定期的に勉強会を開く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約、料金改定時等、個別に時間をかけて説明している。</p>	<p>家族の理解と納得が得られるよう、説明と確認を十分に行う。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段の暮らしの中から、不満や苦情をくみ取り支援している。また時々運営推進会議にも出席してもらっている。</p>	<p>不満や心配事を普段の暮らしの中からくみ取ることができるよう支援する。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭状況、職員の異動等、随時報告している。</p>	<p>家族への報告は、話し方や言葉を工夫し分かりやすく説明し、信頼関係が損なわれないようにする。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所内に苦情受付窓口を明示し、玄関に苦情受付箱を設置しているほか、運営推進会議等でも意見を述べてもらっている。</p>	<p>普段の家族との関わりの中から、意見や苦情を吸い上げるよう努める。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員は年に2回紙面で運営者に意見や提案を述べる機会があり、それについて運営者より回答がある。また職員会議等でも運営者と話し合う機会がある。</p>	<p>現場のスタッフの意見を十分に聞き、より良い施設を皆で作り上げる。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜間、緊急時に備えた体制を整えてあり、いつでも入居者の状態変化に対応できるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの異動はなるべく必要最小限にして欲しい旨、運営者をお願いしている。また異動時は入居者に不安が生じないよう配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフに研修参加や資格取得を奨励している。</p>		<p>知識と技術のステップアップの機会が全員に与えられるよう、また施設全体のレベルアップになるよう勉強する。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と行事や勉強会での交流を実施し、日常的に相談、情報交換等してサービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃からよく相談に応じてくれ、スタッフにもよく声をかけて下さる。</p>		<p>現場の運営や実情等を報告し、共に課題に取り組んでもらえるような関係作りに努める。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>紙面でスタッフの思いを聞いて下さるほか、現場でもスタッフの話をよく聞き相談にのって下さる。</p>		<p>向上心を持って働けるよう、職場環境の改善等、皆で話し合う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人、家族の気持ちを受け止め、家族やケアマネ等と十分話し合っている。</p>	<p>本人や家族が困っていること、不安なこと等時間をかけて話をよく聞き、信頼関係を築くようにする。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時、本人と家族が必要としているサービスを受けられるよう、ケアマネジャー、他事業所、多職種、行政等とも連携して柔軟に対応している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居がスムーズに進むよう、本人、家族、スタッフ間で十分話し合い、不安や心配を言動から察することができるよう観察を丁寧に行っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>同じ家に暮らし共に支えあうという気持ちで接している。</p>	<p>一人ひとりのスタッフが、常に入居者を敬う気持ちを持つよう努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを大事に、家族と共に本人の生活を支援している。		家族から気軽に何でも話していただけるよう、信頼関係を大事にする。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の気持ちを受け止め、より良い関係作りができるよう支援している。		その都度、本人、家族とよく話し合い、より良い支援を行う。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に来てもらったり、馴染みの場所に出かけている。		今後も馴染みの人や場所との関係作りを大切にする。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	誰もが安心して暮らせるよう、より良い関係作りを支援している。		一人ひとりの状態が日々変わる点を考慮し、入居者同士の関係が良好になるように支援する。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も相談に応じ、必要なサービスを支援する等、良好な関係が継続できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしから思いや意向が把握できるよう心がけ、家族からも情報収集を行っている。センター方式も利用している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、本人、家族等から生活歴や暮らし方についてよく聞いている。</p>	<p>本人、家族とのより良い関係を築きながら、これまでの暮らしを振り返る。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>総合的な力の把握ができるよう、よく観察し話し合っている。</p>	<p>一人ひとりの状況の変化を、言動から気付けるよう観察力を養う。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は本人、家族から要望をよく聞き、本人の観察を十分に行い、スタッフ全員で話し合い作成している。</p>	<p>本人がよりよく暮らすために、一人ひとりの思いや希望を大切に計画を作成する。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定期間ごとの見直しを行うほか、身体状況の変化等があった場合には、随時見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を記録に記入し、皆で話し合い情報を共有している。</p>		<p>実践に反映されるような記録のとり方を心掛ける。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者は併設のデイサービスと合同でレクや外出をしたり、行事に参加している。また入退居時に併設の居宅介護支援事業所からも支援してもらっている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近隣の商店や理美容院、駐在所や病院に広報を配布し、入居者が自分の力を発揮し生活できるよう支援している。</p>		<p>地域資源をもっと知り活用すると共に、施設も地域から活用してもらえよう働きかけていく。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>入居申し込み者や退居者の意向や必要性に応じて、関係機関との連絡をとり支援している。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在の所、地域包括支援センターとの関わりはないが、地域福祉等について話し合っている。</p>		<p>本人の意向や必要性がある場合、地域包括支援センターと連携していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理が適切に行われ、常に安心できるよう本人や家族が希望する医療機関で受診している。緊急時にも、かかりつけ医が快く受診を引き受けて下さっている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が本人、施設の現状をよく理解し、適切な助言をして下さっている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職が気付いた状態変化や気付きに看護職がすぐ対応し、併設のデイサービスの看護師、法人内の看護師からも日常的に助言をもらっている。		報告、相談、連絡を随時行い、連携体制を確保していく。
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人のストレスやダメージを軽減するために入院時はよく話し合い、早期に退院できるよう医療機関と相談している。		入居者の健康管理が適切に行われるよう、医療機関とよく連携し、普段から信頼関係を築くように努める。
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を家族と医師の助言で決めている。終末期の対応は行っていない。		重度化や終末期に向けての取り組みを、その時々で家族とよく話し合う。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人のできること、事業所のできることを見極め、家族、医師とよく話し合っている。終末期の対応は行っていない。		重度化や終末期に向けての取り組みを、その時々で家族とよく話し合う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人、家族、ケアマネジャー等で情報交換を行い、ダメージを防止している。住み替え後も本人の状態把握に努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者への声掛けや対応、記録の取り扱い等は、誇りやプライバシーに配慮している。</p>		<p>暮らしの中において誇りとプライバシーが確保されているか確認する。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>希望を聞き出すような声掛けを心掛けると共に、さりげなく自己決定できるよう支援している。</p>		<p>入居者の思いや自己決定を大事にする暮らしを支援する。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の気分や状態、天気等に合わせて、過ごし方を柔軟に変えている。</p>		<p>スタッフのペースにならないよう、一人ひとりのペースを大切に支援する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の望む髪型を確認し、希望する理美容院を利用している。また衣服を選んでもらったり、本人の望むおしゃれを支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みに配慮している。また準備や盛り付け、茶碗を洗ったりお皿を拭いてもらったりしている。		一緒に楽しく作り、おいしく食べることが楽しみとなるよう支援する。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常におやつや飲み物は、本人の好みの物を選んでもらっている。		食べ物に限らず、本人の好みに合わせたものがいつでも楽しめるよう支援する。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の気持ちを大切に羞恥心やプライバシーに配慮し、一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し、排泄がスムーズにいくよう支援している。		気持ちよい排泄が生きる意欲につながるよう支援する。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やその日の健康状態や気分に合わせて、入浴を支援している。		入浴が楽しいものとなるよう支援する。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、安眠や休息を支援している。また日中の過ごし方にも配慮している。		安眠や休息がしっかり確保できるよう支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の収穫、草取り、清掃、洗濯物を干す、取り込む、たたむ、食器を洗ってふく、食事の盛り付けや下ごしらえ等、日々の暮らしの中で実施してもらっている。		「持てる力を引き出す」理念を大事に、できることは入居者に行ってもらおうよう心掛ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き好きな物を選び、お金を払いおつりをもらうという支援を実施している。		社会との接点をいつまでも入居者に持ってもらおうよう、お金を使う支援を継続する。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くの商店へ買い物に出かけている。また希望や生活歴に対応した外出支援を行っている。		外気に触れ、草花を見て、他人と挨拶や会話を交わす日常的な外出支援を積極的に行う。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者から希望が出た場合、可能な限り外出できるよう支援している。		普段行けない場所でも、本人の希望を大事にして可能な限り実施する。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望ある場合、プライバシーに配慮し利用を支援している。		家族や馴染みの人との交流を継続できるよう、電話や手紙のやり取りを支援する。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問はいつでも受け入れ、落ち着いて過ごせるような場所を配慮し、お茶を出してゆっくり過ごしてもらっている。		家族や馴染みの人との関係が良好に続くよう、支援する。
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開き、全スタッフで拘束しないケアに取り組んでいる。		身体拘束について定期的に勉強し、身体拘束について正しい理解を深める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状態やスタッフの人数により施錠することもあるが、天気の良い日やその日の状態に合わせて施錠しないように取り組んでいる。		鍵をかけない時間をもっと増えるよう、工夫して取り組む。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、入居者の様子をよく把握できるようスタッフが声を掛け合いながら、また工夫しながら安全確認を行っている。		施設内に危険な所がないか、事故等につながる所や破損箇所がないか等常に点検し、入居者の安全に配慮する。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、刃物、洗剤等は目に付かない所へ保管している。入居者の使用希望時は、個々に合わせた対応で貸し出している。		事故等につながることはないよう、物品の保管、管理を厳重にする。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに起こり得るリスクを検討し、申し送り等で確認している。		日々の暮らしの中から事故につながるものがないかどうか、観察する力を身につける。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、救急救命の訓練を全スタッフで定期的に行っている。		今後も応急手当や事故発生時の訓練を定期的実施し、いざという時スタッフ一人ひとりが慌てず行動できるようにする。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	昼夜想定避難策があり、防火訓練を定期的に行っている。災害時の協力を近隣に働きかけ、非常食等も準備している。		入居者を確実に避難できるよう訓練に取り組み、検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	健康状態や日々の暮らしぶりを家族に伝え、起こり得るリスクについて家族に説明している。		入居者が日々安心して暮らせるよう、その都度対応策について家族とよく相談する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調変化や異変時の早期発見に努め、申し送り等で報告、早期対応、早期治療を実施している。		入居者の異変に気付く観察力を高め、スタッフ全員で情報を共有し支援する。
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてその都度確認し、確実に正しく服薬できるように支援している。薬剤師にも相談している。		服薬支援については常に緊張感を持ち、事故のないように努める。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や運動、食物繊維の摂取等、便秘にならないよう取り組んでいる。		便の状態や食事摂取、体調等をよく観察し、便秘にならないよう取り組む。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを、一人ひとりの能力に応じて支援している。		口腔内の状態をよく観察し、気になることはすぐ歯科医に相談し、おいしく食事ができるよう支援する。
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し、不足時には補食したり、医師に相談している。毎月、体重測定も行っている。		一日の暮らしの中でバランスの良い栄養摂取、水分の確保をしっかり行うように支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	集団感染しないよう、感染症に対する予防や対応についてのマニュアルがあり実行している。		感染症についての新しい情報を取り入れ、日々感染予防に取り組む。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため食材管理と調理用具等の清潔保持についての取り決めがあり、実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花や樹木を植えたり、沢山の野菜を植えて、入居者や家族が安らげるようにしている。		施設を訪問する全ての方が、安らぎを感じることできる建物にする。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるような草花や飾りを所々に置き、音や匂いにも配慮している。		生活感や季節感を生活の中に取り入れ、気持ちよく過ごしてもらえるようにする。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心して過ごせるよう、和室に座布団、廊下にソファを置いて、いつでも好きな所でくつろげるようにしている。		共用空間が、安心して居心地よく過ごせる場所にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に愛用していた物やなじみの物を持ち込んでもらったり、その人に合った居室作りを行っている。</p>		<p>居室が安心して居心地のいい場所となるよう、常に配慮する。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温湿度計で温度、湿度を確認し、匂いや空気のだよみがないよう、また感染症防止の為に換気を定期的に行っている。</p>		<p>入居者にあわせた換気、空調を行うよう配慮する。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内に手すりを設置し、施設内はバリアフリーとなっている。</p>		<p>一人ひとりの状態に合わせて、建物が常に安全であるよう環境づくりに取り組む。</p>
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>誤認や錯覚によって不安になることがないよう、のれんを下げたり、居室入り口に名前を貼ったり、わかりやすい言葉で場所の表示をしている。</p>		<p>一人ひとりの状態をよく把握し、自立して暮らせる環境づくりに取り組む。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に花を植えたり、野菜を植えたり、外にベンチを設置する等、入居者が楽しめるようにしている。</p>		<p>建物が、自宅と同じように活動できる場所になるよう取り組む。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「外に出かける」を大事にしています。外に出かけ、季節を見て触って嗅いで聞いて感じて、人と話す。そんな普通の暮らしをいつまでも続けていただきたいと願っています。